

令和4年度 第2回 石狩市子ども・子育て会議 議事録

日 時：令和5年3月1日(水) 14時00分～15時40分

場 所：石狩市役所2階 201会議室

委員出席者：9名

吾田会長、伊藤副会長、河岸委員、坪田委員、新田委員、穴田委員、青田委員、高橋委員、野口委員

事務局出席者：宮野部長、伊藤次長、佐々木課長、大西主査、中川主査、齊藤主任、若松主事

傍聴者：0名

議事：報告

(1) 教育・保育施設の利用定員の変更について

(2) 石狩市子育てサポート事業等の見直しについて

資料配布：別添のとおり

【14：00 開会】

◇委員委嘱

◇事務局から配布資料の確認、会議の役割・運営等について説明、会議の成立及び会議議事録により公開の報告

◇会長、副会長を互選により決定 会長 吾田富士子、副会長 伊藤美由紀

◇宮野部長挨拶

◇(1) 教育・保育施設の利用定員の変更について・・・大西主査から説明

【高橋委員】

利用定員は施設への給付費（公費）に影響するか。また号数により単価が違うのか。

【大西主査】

国が定める公定価格の積み上げにより、公金を支出している。この公定価格は、利用定員により区分され、何人から何人まではいくらというふうに単価が決まっている。この単価は、定員が少ないほど単価が高くなっている。このため定員を恒常的に上回る状態が続くと減算措置の対象になる。

この単価については、教育の1号は4時間、保育の2号・3号は、標準時間11時間と短時間8時間で利用時間などによっても単価が変わってくる。

【坪田委員】

認可定員より利用定員が少ない場合、認可定員を引き下げるのか。

【大西主査】

利用定員が認可定員を上回る変更の場合は、認可定員の変更を伴うが、認可定員より利用定員が少ない場合に、認可定員を利用定員に合わせて引き下げることまでは、制度上求められていない。

今回の認定こども園わかば幼稚園は、変更後の2号、3号の利用定員が認可定員を超えるため、認可定員の変更を行っているもので、2、3号定員の増加分を1号定員を減少させているため、施設全体では変更はなく、定員の内訳を変更する内容となっている。

【河岸委員】

最終的に50人の利用定員が減になるが、市内の子どもたちを受け入れることに影響はないか。

【大西主査】

受け入れに影響はない。市内全体の変更後の利用定員と、令和4年度4月の利用状況を比較し、受け入れることができる体制が確保されていることを確認している。

【吾田会長】

他に質疑・意見ないので次の議題とする。

◇議題（2）石狩市子育てサポート事業等の見直しについて・・・若松主事説明

いしかりファミリー・サポート・センター交通費改訂について

【吾田会長】

サポート会員の送迎負担が大きくなっているが、改訂後は厚田区、浜益区の子育て家庭の利用は難しいのか。

【若松主事】

サポート会員がいれば利用は可能となる。

【河岸委員】

子どもはいるが、サポート会員がいないということか。

【若松主事】

現在、厚田区、浜益区に稼働できるサポート会員が恐らくいないので、依頼があった場合は要検討となる。

【穴田委員】

自車を使って送迎できるサポート会員が限られ、更に冬場の運転負担やリスクが高いが補償はあるのか。また、送迎できる人が少ないのであれば、タクシーの活用等の補助はあるのか。

【若松主事】

サポート事業では保険に加入しており、補償はある。タクシー活用の補助事業は現在行っていないが、令和3年度は試験的に実施していた。

【野口委員】

児童デイの子どもを3～4人乗せ送迎していた経験があるが、送迎中、急遽車を停めて他の職員に駆けつけてもらったことがあった。色々な特徴のある子どもを乗せ、運転しながら子どもへの目配りもあり、毎日送迎だけで疲弊し、身がもたなくなり仕事を離れた。子どもの命を預かっての送迎は本当に大変であり、送迎だけでもプロに任せることができれば、子どもにも保護者にも施設にも良いのだが。

【坪田委員】

以前からサポート事業はあるが、昔で言えば近所のおばさんがちょっと子どもをみてくれる事を制度化したようなもの。母親が帰る頃、預かった子どもと手を繋ぎ歩いて家まで送る距離間だったと思うが、今は車がないと送迎できない距離でもあるし、訴訟の時代でもあるので補償は必須である。

保育園では、子どもが怪我をした場合等、運転する職員の心理的負担や送迎中の事故等を考え、タクシーを利用している。

【伊藤次長】

依頼会員の送迎のニーズは高まってきている一方で、サポート会員の負担から断るケースもあった。将来的にそれに代わる何か手立てを考えていかなければということで、令和3年度に交付金によりタクシーを活用し、初乗料金分のみを市が補助をする事業を試験的に運用した経緯がある。継続するためには見通しを持った計画が必要となり、すぐに事業開始ということは難しい。

タクシードライバーは運転のプロなので、安心して子どもを乗せることができるが、一方で子育て支援という観点から見ると、子どもを送迎する場合の対応等、別の支援が必要となるため、ドライバーの方にもいしかり子育てサポートタクシー講習を受講していただいたが、難しい点もあったかと思う。

サポート会員を増やすために、毎年、サポート会員養成講座を開催し、受講者はいるものの実働に結びつく人は多くないのが現状である。

【吾田会長】

試験的にタクシー事業を実施したようだが、必要な親子に安心して届けられるよう今後体制を考えていただきたい。

他に質疑・意見ないので次の議題とする。

◇いしかりファミリー・サポート・センター基本料金改定について

【坪田委員】

えるむの森子育て支援センターには、有償ボランティアひまわりが入っており、親子共に慣れていてるため預けている方もいる。サポート事業の有償ボランティアへの謝金は、国の最低賃金よりも低く、仕事の重さからすると割に合わずサポート会員を増やすにも料金改定は必要かと思う。

保育園には一時保育事業があるが、急な対応ができず、前月の申し込みで利用が可能となり、1ヶ月の利用時間に制約がある。一時保育の保育士の勤務シフト等から、急な受け入れは保育園でも難しい状況がある。

【野口委員】

私は、他市でファミリー・サポート・センターの講習を受け活動できる状況となったが、感染症等から家族のことを考え、サポート側として稼働はしなかった。サポートする側も家庭の事情や送迎の不安から動けない方もおり、サポート会員の負担は大きく、今の謝金体制では、サポート会員を増やすことは難しいと考える。

【吾田会長】

他に質疑・意見ないので次の議題とする。

◇子育てサポート事業 無料スタンプカード1日当たりの利用時間の変更について

【新田委員】

他市町村にもサポート事業があり、重きを置く部分が異なるかと思うが、石狩市で行っている40時間無料スタンプカードは充実しており、共働きや子育てが大変で困っている方には有効である。一方、サポート会員の負担の大きさなど課題もあり、今後も持続可能なよりよい事業運営の在り方を考えるためには、令和3年度の448件の対応内容の内訳など参考になるかもしれない。

【河岸委員】

相談者の中には、有効にこの無料スタンプカードを活用している人もいた。一人で子育てを頑張り、精神的にも身体的にも疲弊している母親は多い。子どもをみて欲しい時に近くに親戚や子どもの預け先がないという方もおり、短時間でも利用することで、元気に子育てに向き合える母親もいる。

【青田委員】

石狩で生まれ育ち、結婚して子どもを産み育てているが、子育てサポート事業を利用したことはなかった。知らない人に小さな子どもを預けることや知らない人が自宅に来て子どもをみてもらうことに抵抗があった。子どもが小さい頃は、部屋の片付けもままならず、毎日が大変で子育てで疲弊し、知らない人が自宅に来ることには精神的にもハードルが高い。子どもを同じ方に見てもらえるかどうかも分からなかったので、小さな子どもを預ける一歩が踏み出せずにいた。

【穴田委員】

私の場合は一度子どもと遊んでもらい、子どもが信頼して遊んでいる姿を見てから預けた。サポートしてくれる人が分かり、子どもとの相性も分かると利用しやすくなると思う。以前、こども未来館のりとるきっずでも子どもの預かりをやっていたかと思うが、いつも遊びに行っている親子は、場所にも先生にも慣れ親しんでおり、子どもは母親がいなくても遊んで過ごせたとし、母親も安心して預けることができた。また、お弁当を持って親

子で楽しく一日を過ごせる場でもあった。自分は車でいきたい場へ親子で出向けたが、運転ができて車が使えない、車があっても運転できず、遊び場へ行けない親子向けの支援があればよいのだが。

【伊藤委員】

りとるきっずにいつも来所している親子にとっては、先生との信頼関係もできているので安心して預けやすかったと思うが、色々な責任問題や保育室の整備もあり、今は中止している。再開するには、保育室の整備を考えていかなければならない。

車で子育て支援センターのはしごをしている親子がいる一方で、車がなく、運転もできない、バスにも乗れずにひとりで子育てを頑張り泣いて助けを求めている母親がいる。そのような親子が、無料タクシーチケット等を利用して親子で子育て支援センターに遊びに来て、子どもが先生と遊んでいる姿や先生に話を聞いてもらったり相談ができれば母親の気持ちも軽くなり、また子育てを頑張れるかと思うので、そのような支援もあればよい。

【野口委員】

子育て中の母親は自分の時間がほとんどなく、無料スタンプカードはとても助かると思う。1歳になるまでと利用制限があるが、子どもは成長と共に活動量が多く、できれば就学前まで利用できると思う。また、車がなくバスにも乗れない親子向けには、循環バスが各公園に行き、親子を子育て支援センターまで送迎し、バス自体が遊び場になるなどすれば、親子が外界と繋がることができ、子育てによる親子間の煮詰まりを解消してくれるのではないかと。

【吾田会長】

過去に札幌市で人口が爆発的に増えたことで幼稚園が不足した時期があり、苦肉の策で各公園に先生やおもちゃ等を乗せたバスが循環していた青空幼稚園があった。苦肉の策で石狩市も打開する鍵が何か見つかるかもしれない。今後も引き続きいろいろな意見をいただきたい。

他に質疑・意見がなければ会議を閉会する。

令和5年3月27日議事録確定

石狩市子ども・子育て会議

会長 吾田 富士子
